

家庭科的視点からの キャリア教育モデルの開発と検討

2006.12.16



キャリア教育学会
近畿・中国四国地区部会
第7回研究大会

滋賀大学

奈良教育大学 河崎智恵

研究の背景

学校教育における課題

- キャリア教育の導入
→教科におけるキャリア教育実践の構想が示される
- キャリア教育の方向性
→人間生活全体を視野に入れたキャリアの視点は希薄

教科(家庭科)としての課題

- 男女共同参画社会の実現に寄与するライフスタイルの構築
- 家事労働の社会化等にともなう、教科内容の再検討
- キャリア教育的内容に関する検討(教科としての統一的理解の必要性)

本研究におけるキャリアの概念

キャリア

「生涯にわたる役割に関連した道筋・進路」

・生活キャリア

「生涯にわたる家庭生活や地域生活における
役割や実践の道筋・進路」

・職業キャリア

「生涯にわたる職業や職務の道筋・経路」

研究目的

1. 職業キャリアと生活キャリアの両視点から、米国家庭科におけるキャリア教育を手がかりに、家庭科におけるキャリア教育モデルを開発。



2. 開発したモデルの能力領域の尺度を構成し、構成した尺度を用いて、教育実践の可能性を検討。

研究方法

- ・文献研究(日米のキャリア教育に関する文献・カリキュラム・教科書等)
- ・面接調査(2001年3月、大学生男女30名対象:キャリア決定の実態)
- ・実地調査(2000年4~5月、ミネソタ・オハイオ・ウイスコンシン州、中等学校15校、キャリアセンター2校、州教育局、研究期間等)
- ・質問紙調査(2001年1~2月、奈良県・横浜市の家庭科担当教師232人:
家族・家庭生活領域の今後の重点課題)
- ・質問紙調査(2001年7月、広島県・兵庫県の大学生417人、高校生597人、中学生448人、計1462人:能力領域に関する調査項目)

「進路指導」にみられるキャリア教育実践

- 「総合的な学習の時間」、特別活動が中心
- 教科での実践事例は少ないが、「家庭科」「社会」「理科」「国語」「美術」、および「産業社会と人間」(主に高校の総合学科や専門学科で履修)の実施例が認められた。
(体験的学習と関連させた、特別活動等の補助的な内容)
- 教科名の記載のない事例の中には、「家庭科」の内容とみなせる単元が認められた。
(中学校の「自分の将来を考えよう」や高等学校の「将来の生活設計」は家庭科の「生活設計」の領域内容に相当)

家庭科におけるキャリアの取り扱い ～学習指導要領の変遷～（資料1）

- ①職業キャリアの一環としての生活キャリアの育成期
↓
- ②性別役割分業観にもとづく女子の生活キャリアの育成期
↓
- ③男女の生活キャリアの育成期
↓
- ④生活キャリアと職業キャリアの育成期

研究方法

- ・文献研究(日米のキャリア教育に関する文献・カリキュラム・教科書等)
- ・面接調査(2001年3月、大学生男女30名対象:キャリア決定の実態)
- ・実地調査(2000年4～5月、ミネソタ・オハイオ・ウイスコンシン州、中等学校15校、キャリアセンター2校、州教育局、研究期間等)
- ・質問紙調査(2001年1～2月、奈良県・横浜市の家庭科担当教師232人:
家族・家庭生活領域の今後の重点課題)
- ・質問紙調査(2001年7月、広島県・兵庫県の大学生417人、高校生597人、中学生448人、計1462人:能力領域に関する調査項目)

男女のキャリアの捉え方(資料2)

男性のキャリアの捉え方

職業キャリアを人生の中心と位置づけて職業に経済的責任と人間的成長の役割を認め、家庭生活は副次的なもの。

女性のキャリアの捉え方

・職業キャリアは楽しみや生き甲斐のためのものとして、生活キャリアは、逃れられない責任として位置づけ。

・職業キャリアに求める楽しさや生き甲斐と、責任としての生活キャリアを融合させた趣味的に行うキャリアを、詳細にイメージ。



※男女ともに、生活キャリアと職業キャリアに自己実現と共同責任という両側面を見出せていない。

キャリア決定プロセス(資料3)

早期決定型、途中変更型、直前決定型、回避型の4つの型

- 限定的な情報の中で自己理解
- 小学校段階から、テレビ等のメディアや無意識のジェンダーバイアス
- 葛藤経験の意義

将来生活への不安

- 不安要因は生活キャリアと職業キャリアのバランス、折り合いに関すること。
- 男女とも子育てに関する不安がもっとも顕著。子育てを契機として、離転職や時間帯、勤務場所等、互いの働き方を見直さなければならないことを予測。
- そうした予測を、男子は「負け」「不本意」なものと受け止め、女子は「仕方ない」あるいは「社会への負け」と捉えていた。

米国家庭科ナショナルスタンダードにみられるキャリアの位置づけ(資料4)

- キャリア
第一の学習領域として家族および地域生活との関わりにおいて位置づけ。
- 諸領域(食生活、衣生活等)において、関連する職業に必要な情報、知識やスキルを統合。



家庭、地域生活の延長線上に職業生活を認知

米国家庭科教科書にみられる キャリア教育（資料5）

■ 家庭科のキャリア教育における方向性

- ① 家族・地域・職業の関係の理解および多様な役割の遂行
- ② 家庭科の学習領域に関連する諸職業の理解と職業能力の育成

教科書にみられる多様な仕事（資料6）

- 具体的な事例による詳細なシミュレーション
- 入門レベル、中間レベル、専門職レベルを提示
- 中等学校の段階は、ボランティアワークを含む入門レベルの仕事を経験する段階。入門レベルの仕事を得るための方法が詳細に提示。
- 卒業後の多様な仕事の情報・道筋が提示。

州教育スタンダードにおけるキャリア教育 ～ミネソタ州の場合～(資料7)

- キャリアは意思決定の学習領域において、ミドルスクールおよびハイスクールレベルで学習
- ミネアポリススクールディストリクトの場合
州スタンダードに示される学習領域の担当教科が決められ、キャリアに関する教育内容は、ミドルスクール、ハイスクールともに家庭科で指導するよう位置づけ。

米国家庭科における授業実践

- ① 家族・地域・職業の関係の理解・多様な役割の遂行
- ② 諸職業の理解と職業能力の育成

<ミドルスクールスクールの実践例(資料8)>

前者を中心に、自己理解、人間関係能力、意思決定能力、情報収集・活用能力の育成が意図。

<ハイスクールの実践例(資料9)>

後者の方向性を重視し、就業経験を重視したプログラムの中で具体的なライフキャリアプランニングの能力育成。

<キャリアセンターでの実践例>

ライフキャリアプランニングの能力の中でも、特に就業準備に焦点が当てられ、高度な専門的教育が提供。

モデルの構築と教育可能性(資料10・11)

「家庭科におけるキャリア教育モデル」

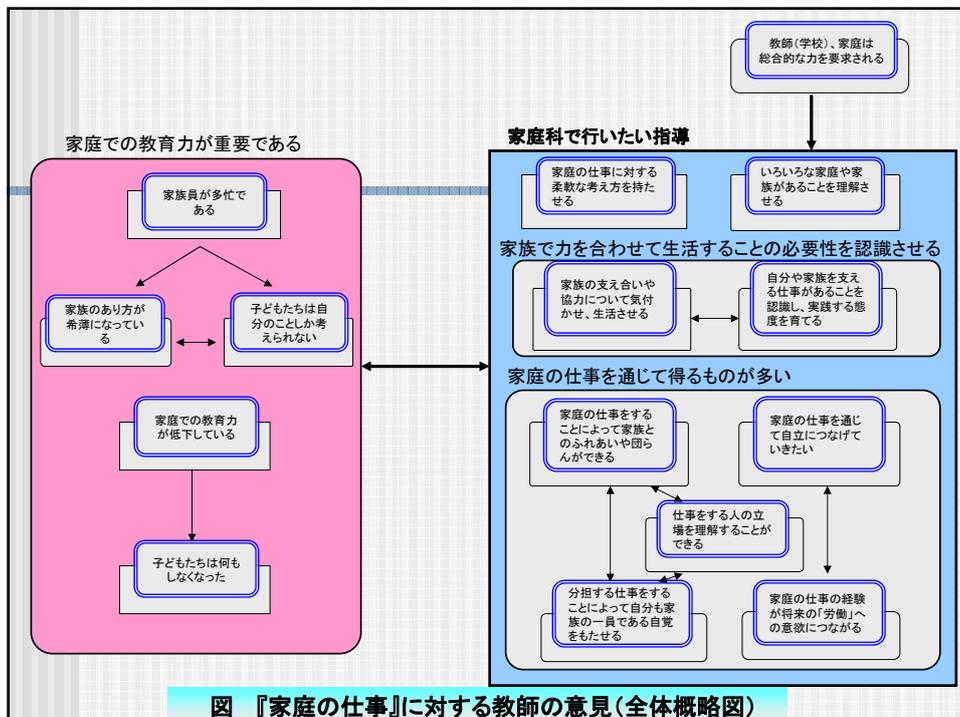
家庭・地域・職業生活を視野に入れた生活キャリアと職業キャリアの統合の視点を重視

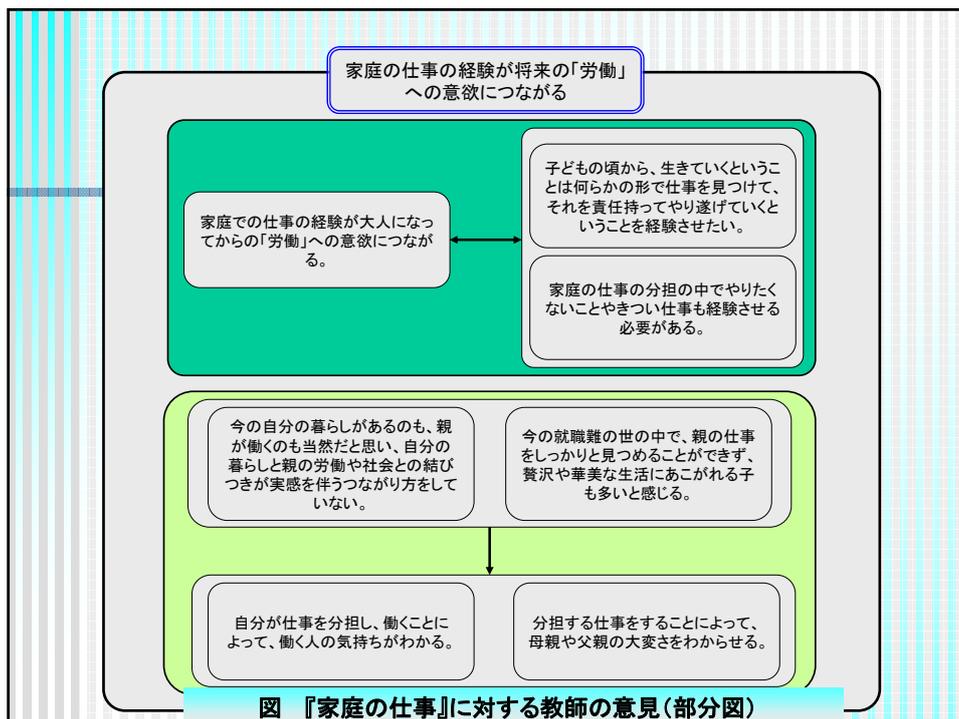
- ①自己理解 ②人間関係 ③意思決定、
④情報収集/経験 ⑤ライフキャリアプランニング



家庭科授業での可能性

- ・「家族と家庭生活」に関する学習領域で展開
- ・家庭科の各学習領域においてキャリア情報を提供したり探索したりして発展させる





能力領域の尺度の構成(調査方法)

- **調査対象** 広島県の大学2校の2・3年生、広島県および兵庫県の高専3校の2・3年生、広島県および兵庫県の中学校4校の3年生を対象として実施した。欠損値を除いた有効回答率は70%であり、有効回答数は、大学生417人、高校生597人、中学生448人、計1462人である。
- **時期** 2001年7月、無記名自記式
- **調査項目の作成と手続き**
構築した家庭科におけるキャリア教育モデルをもとに、自己理解、人間関係、意思決定、情報収集/経験、ライフキャリアプランニングの5能力領域の下位能力に関する項目(各10項目)から成る計50項目の質問項目を作成

能力領域の構成についての検討 (資料12・13)

- ・質問項目の主成分分析の結果
 - 第1因子「情報収集や経験への積極性」
 - 第2因子「肯定的な自己理解」
 - 第3因子「将来の計画性」
 - 第4因子「意思決定への自信」
 - 第5因子「他者との関係重視」



抽出された各因子は、構築したモデルの能力領域とほぼ一致する結果であり、モデルの能力領域の構成は概ね妥当であると判断できた。

尺度の学校段階、性別、キャリア教育的 経験からみた差異の検討(資料13)

<学校段階による差異>

- ・因子1「情報収集や経験への積極性」、因子3「将来の計画性」および因子5「他者との関係重視」→中学<高校<大
- ・因子2「肯定的な自己理解」では中学<大学、高校<大
- ・因子4「意思決定への自信」では大学>高校

<性別による差異>

- ・因子1「情報収集や経験への積極性」では高校・大学で、因子3「将来の計画性」では高校で女子の方が有意に高い。
- ・因子5「他者との関係重視」は女子の方が有意に高い。
- ・因子2「肯定的な自己理解」は中学で男子が有意に高い。

<キャリア教育経験による差異>

- ・因子4「意思決定への自信」では中学・高校でキャリア教育的経験のないの方が有意に高い。
- ・因子5「他者との関係重視」では中学でキャリア教育的経験のないの方が有意に高い。

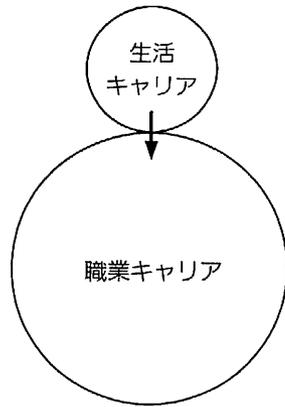
資料引用

- ・キャリア教育実践に貢献できる教師教育の課題， 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 No14 (2005)
- ・キャリア教育の視点からみた家庭科の可能性， 福田公子・山下智恵子・林未和子編著， 生活実践と結ぶ家庭科教育の発展， 大学教育出版 (2004)
- † 家庭科におけるキャリア教育モデルの検討ー能力領域の尺度の構成を中心にー， 進路指導研究， 第22巻第1号 (2003)
- ・キャリア教育を通じてアイデンティティを育てる， 岡本祐子編著， アイデンティティ生涯発達論の射程， ミネルヴァ書房 (2002)
- ・米国中等学校家庭科におけるキャリア教育の授業実践ーオハイオ州、ミネソタ州、ウィスコンシン州の現地調査をもとにー， 進路指導研究， 第20巻第2号 (2001)

大変ありがとうございました。

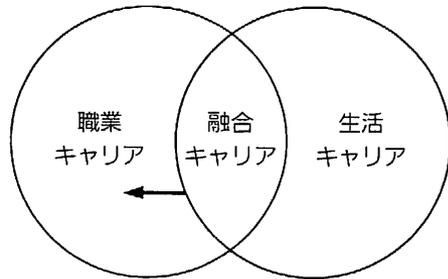


資料2



職業キャリア 経済的責任と人間的成長のための職業
生活キャリア 職業キャリアの基盤の上に積み重ねられるサブ労働

図 男子学生のキャリアのとらえ方



職業キャリア 楽しみや生きがいのための仕事
生活キャリア 責任としての家事・育児
融合キャリア 生活の延長線上にある趣味等を活かした、楽しみや生きがい等のための趣味的仕事

図 女子学生のキャリアのとらえ方

資料3

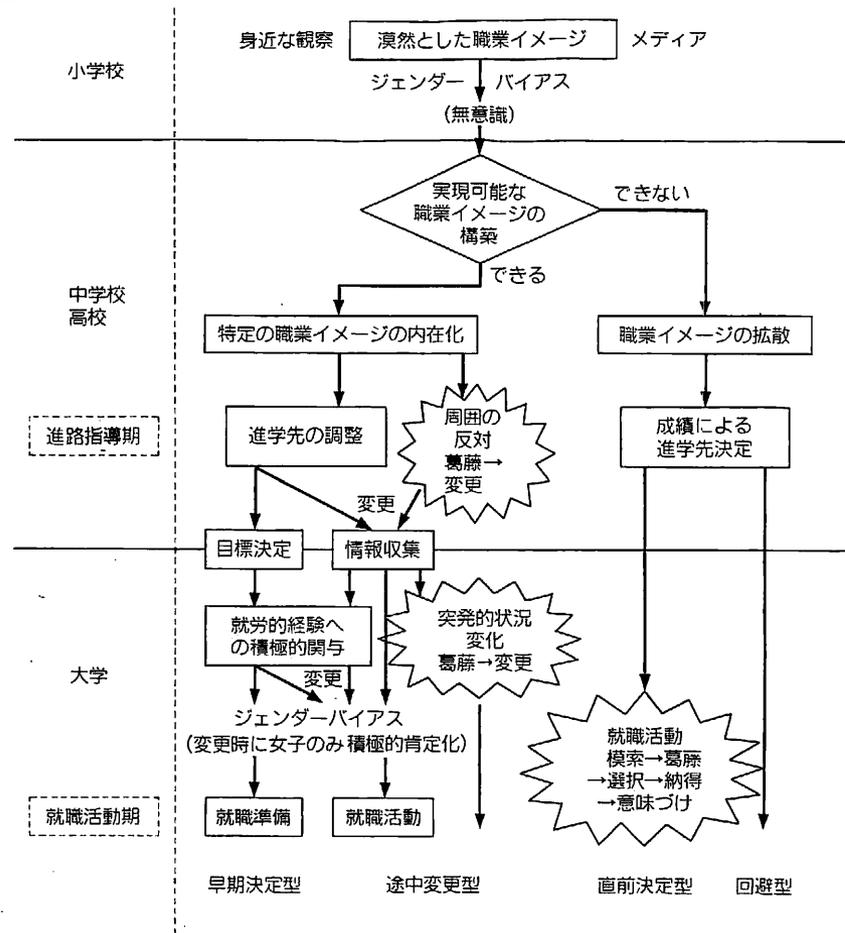


図 キャリア決定プロセス

- 〈早期決定型〉 小・中学校段階で特定の職業イメージを内在化し、周囲の意見や就労的経験で強化されながら、顕著な葛藤経験がないまま職業を決定していく型
- 〈途中変更型〉 小・中学校段階で内在化された職業イメージを、成績による進学先の調整・両親などの周囲の反対・就労的経験や突発的状況変化によって大きな葛藤を伴って変更する型
- 〈直前決定型〉 中・高等学校時代に実現可能な職業イメージを構築できず、大学進学後も職業イメージが拡散したまま、就職活動期に初めて葛藤経験を伴って決定を行う型
- 〈回避型〉 職業イメージが拡散したまま、就職活動期になっても活動を経験せず、決定を回避する型

資料4

表 家庭科ナショナルスタンダードの学習領域と全体目標

学習領域	全体目標
1. キャリア, コミュニティ, 家族のつながり	1.0 家族, 仕事およびコミュニティの環境における多様な生活役割と責任を統合する。
2. 消費者と家族のリソース	2.0 人間, 経済, 環境に関するリソースの管理を評価する。
3. 消費者サービス	3.0 消費者サービスに関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
4. 幼児, 教育, サービス	4.0 幼児, 教育, サービスに関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
5. 設備の管理とメンテナンス	5.0 設備の管理とメンテナンスに関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
6. 家族	6.0 家族の意義および個人と社会の幸福に及ぼす家族の影響を評価する。
7. 家族とコミュニティサービス	7.0 家族とコミュニティサービスに関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
8. 食品製造とサービス	8.0 食品製造とサービスに関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
9. 食品科学, 食事療法, 栄養	9.0 食品科学, 食事療法, 栄養に関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
10. 接待, 観光旅行, レクリエーション	10.0 接待, 観光旅行, レクリエーションに関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
11. 住居, インテリア, 家具	11.0 住居, インテリア, 家具に関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。
12. 人間発達	12.0 人間の成長と発達に強い影響を及ぼす要因を分析する。
13. 人間関係	13.0 家族, 職場, コミュニティにおける尊敬に満ちた思いやりのある関係を築く。
14. 栄養とウェルネス	14.0 個人と家族の幸福を高める栄養とウェルネスを実行する。
15. 親になること	15.0 個人と家族の幸福を強めることに及ぼす親になることの役割と責任を評価する。
16. 織物と服装	16.0 織物と服装に関するキャリアに必要な知識, スキル, 実行を統合する。

(NASAFACS and V-TECS, National Standards for Family and Consumer Sciences Education, 1998 より筆者作成)

資料5

表 Exploring Life Skills の目次

ユニット1 あなた個人のベスト	ユニット2 あなたの関係性	ユニット3 あなたの資源管理	ユニット4 あなたの食物	ユニット5 あなたの外観	ユニット6 あなたの家
1 あなたの自己イメージ	9 あなたの天性	16 あなたの資源	20 あなたの栄養	26 あなたの身繕い	30 あなたの空間
2 あなたの感情	10 あなたの家族	17 あなたのお金	21 あなたのフィットネス	27 あなたの外見	31 あなたの家庭での仕事
3 あなたの心	11 あなたの仲間	18 あなたの消費者スキル	22 あなたの食事準備のスキル	28 あなたの衣服	32 あなたの地域社会
4 あなたの態度	12 あなたのコミュニケーション	19 あなたの環境	23 あなたの調理スキル	29 あなたの縫製スキル	住居と家具に関するキャリア
5 あなたの人格	13 あなたの子ども理解	資源管理に関わるキャリア	24 あなたの調理スキル	衣服と布地に関わるキャリア	
6 あなたの倫理	14 あなたのチャイルドケアのスキル		25 あなたの軟待		
7 あなたの決定	15 高齢者との関係性		食物と栄養に関わるキャリア		
8 あなたのキャリアの道	ケア供給と人間発達に関わるキャリア				

(注) 対象学年: 5~8 学年, 近年出版のため未だ使用されている州は確認できていない。

(出典) Thompson, P. J. & Jax, J. A. 1998 *Exploring Life Skills*, EMC Corporation より筆者作成。

表 米国家庭科教科書にみられる目次とキャリアクラスター別職業

	A 個人	B 家族・子ども	C 経営	D 食物	E 被服	F 住居
入門レベル	④サービス職業群 (看察アシスタント・ソーシャルワーカー助手・健康クラブの勤務者)	②専門的・技術的職業群 (家族ケア提供者・キャンプカウンセラー) ④経営サポート職業群 (教師の助手・レクリエーションアシスタント) ⑤サービス職業群 (家政婦・家政婦助手・ヘルパー・チャイルドケアワーカー・乳母・チャイルドケアの助手・ファミリーチャイルドケアアシスタントの助手・放課後ケア提供者・児童虐待に関する仕事をしる人・ホットラインワーカー・高齢者の相手・ホームメーカー・学校カフェテリア勤務者・運動場アシスタント)	④マーケティングと販売に関する職業群 (販売員・レジ係) ④経営サポート職業群 (経営アシスタント・銀行員・銀行窓口係・集金代理人・市場調査員・図書館アシスタント) ⑤サービス職業群 (家政婦・清掃者・高齢者の買い物助手)	④マーケティングと販売に関する職業群 (レジ係) ④経営サポート職業群 (在庫店員・配達員) ⑤サービス職業群 (ウエイトレス・ウエイター・キッチン助手・カウンターサーバー・フードサーバー・ホスト・ホステス)	④マーケティングと販売に関する職業群 (販売員) ④経営サポート職業群 (在庫店員) ⑥製造業の職業群 (ミシンオペレーター・染め物士・プレッサー・靴修理工)	④マーケティングと販売に関する職業群 (備品販売員・器具や製品の実演販売員・ガーデンショップ販売員) ⑤サービス職業群 (住居清掃者・苗木サービスを行う人・家政婦) ⑦建設業の職業群 (造作工・メンテナンス労働者) ⑩手伝い者・設備清掃者・ヘルパー・労働者の職業群 (建築作業員)
中間レベル	②専門的・技術的職業群 (ケースワーク助手・危機センターの勤務者) ④マーケティングと販売に関する職業群 (化粧品販売員) ⑤サービス職業群 (スポーツインストラクター・美容師・理容師)	①管理・運営・経営的職業群 (運動場管理者) ②専門的・技術的職業群 (高齢者センターのスタッフ・デイキャンプのカウンセラー・高齢者センターのレクリエーションワーカー・グループホームケア提供者・社会サービス助手・子ども写真家・子どもの記者・婦人形師・道化師・話し家・手品師・子供用回答者の作家) ④経営サポート職業群 (教師の助手・幼稚園助手・運動場助手・キャンプ指導者助手) ⑤サービス職業群 (身体療法士アシスタント・職業療法士アシスタント)	①管理・運営・経営的職業群 (ビルの管理者・管理人サービスオーナー) ④マーケティングと販売に関する職業群 (製品実演販売者・販売員) ④経営サポート職業群 (レポート・クレジット管理者・銀行員・銀行窓口係・クレジット管理者・安全性ガード環境専門家・水質検査員・固形物検査員・環境調査アシスタント) ⑥製造業の職業群 (店舗比較調査者・顧客サービス)	①管理・運営・経営的職業群 (農場経営者・デパート経営者・ブランド経営者) ②専門的・技術的職業群 (食物写真家) ④マーケティングと販売に関する職業群 (レジ係・ホステス) ⑤サービス職業群 (食事配膳者・デザート配膳者・シェフ・調理師) ⑥製造業の職業群 (簡単な調理・ピザ製造者・肉を切る係・肉屋・ベーカリー)	①管理・運営・経営的職業群 (店舗経営者・ショッピングサービスのオーナー) ②専門的・技術的職業群 (仕入れ係・ファッション専門家・ファッションコンサルタント・ディスプレイアーティスト・ヘアードレッサー・モデル・ファッション写真家・ファッションイラストレーター・Tシャツデザイナー・イメージコンサルタント) ⑥製造業の職業群 (型紙制作者・縫製係・サンプル制作者・ドライクリーナー・仕立屋・ドレス制作者・いす類張り替え者)	①管理・運営・経営的職業群 (家具仕入れ係・在住管理者) ②専門的・技術的職業群 (家具デザイナー・建築写真家・インテリアデザイナー) ④マーケティングと販売に関する職業群 (不動産販売人・不動産代理人・不動産仲買者) ⑦建設業の職業群 (建築工事監理人・大工・電気技師・配管工) ⑥製造業の職業群 (製図工・カーテンおよびスリッパカバー制作者)
専門レベル	②専門的・技術的職業群 (教師・ホームエコノミスト)	①管理・運営・経営的職業群 (チャイルドケアセンター経営者・デイケア管理者・放課後プログラム管理者) ②専門的・技術的職業群 (教師・地域ユース組織の指導者・社会学者・人類学者・医師・心理学者・児童心理学者・カウンセラー・スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・宗教的な仕事をする人・児童弁護士・小児科医・精神科医・小児科看護士・高齢者学者・家庭裁判所裁判官・子どものケアの資格を持って働く人・子どもの生活専門家・児童図書館員・デイケアセンター教師・高齢者市民センター指導者・栄養士)	①管理・運営・経営的職業群 (人事経営者・支配人・ブランドマネージャー・家政婦管理者・ホテル経営者・老人ホーム経営者) ②専門的・技術的職業群 (弁護士・ホームエコノミスト・消費者信用カウンセラー・会計士・消費者問題指導者・広告クレーム専門家・環境エンジニア・図書館員・都市プランナー・地域物理学者) ⑥製造業の職業群 (製品テスター)	①管理・運営・経営的職業群 (スーパーマーケット経営者・グルメ食品店経営者・健康食品店経営者・料理長) ②専門的・技術的職業群 (職業教育やコミュニティーカレッジの教師・食物エンジニア・栄養士・ホームエコノミスト・食物科学者・栄養学者・食物記者)	①管理・運営・経営的職業群 (仕入れ係・ファッションデザイナー・店舗マネージャー・ファッションレポーターおよび編集者・布地デザイナー・イメージコンサルタント・ファッションアート指導者) ②専門的・技術的職業群 (デザイナー・布地科学者・布地エンジニア)	①管理・運営・経営的職業群 (家政婦管理者) ②専門的・技術的職業群 (建築家・環境エンジニア・都市プランナー・アーバンデザイナー・景観設計者・キッチンプランナー・インテリアデザイナー・生活専門家・家のサービスドバイザーとしての消費者専門家・エネルギー分析者)

「米国家庭科教科書(本文中に記載)」より作成

(注1) A~Fは領域内容による分類記号を示す

A:個人に関する領域 B:家族・子どもに関する領域 C:経営に関する領域 D:食物に関する領域 E:被服に関する領域 F:住居に関する領域

(注2) ①~⑪は以下のキャリアクラスターを示す

- ①管理・運営・経営的職業群
- ②専門的・技術的職業群
- ③マーケティングと販売に関する職業群
- ④経営サポート職業群
- ⑤サービス職業群
- ⑥機械工・設置工・修理工の職業群
- ⑦建設業の職業群
- ⑧製造業の職業群
- ⑨運送・運搬の職業群
- ⑩手伝い者・設備清掃者・ヘルパー・労働者の職業群
- ⑪軍事に関する職業群

Occupational Outlook Handbook (U.S.Department of Labor 発行) より

学習領域 レベル	1読む、見る、聞く	2書くことと話すこと	3文学と芸術	4数学	5調査	6科学的応用	7人々と文化	8意思決定	9資源の発達	10世界の言語
ミドル スクール レベル (6-8学年)	・ノンフィクション (英語・言語・芸術) ・小説 (英語・言語・芸術) ・技術的な読み方 (技術的教育・化学・メディア・家庭科)	・書くこと (英語・言語・芸術) ・対人的コミュニケーション (ガイダンス、家庭科)	・芸術的な創造と演技 (芸術) ・芸術的な解釈 (芸術)	・形・空間・測量 (数学) ・数字の意識 (数学) ・可能性とデータの処理 (数学・科学) ・型と機能 (数学)	・正確な調査 (科学・数学) ・近接情報 (社会、ガイダンス) ・統制実験 (科学)	・生活システム (科学) ・地球システム (科学) ・物理システム (科学)	・現代の問題の分析 (社会・家庭科) ・地理と文化 (社会) ・歴史と市民性 (社会)	・個人の健康 (健康・家庭科) ・体育とフィットネス (体育) ・キャリア探求 (ガイダンス・家庭科)	・個人の資源 (社会・家庭科) ・集団の資源 (健康・家庭科) ・見識のある消費マリズム (健康・家庭) ・テクノロジーの応用 (テクノロジー教育・ガイダンス・メディア)	・世界の言語 (世界の言語・テクノロジー教育)
ハイスクール レベル (9-12学年)	<選択1> ・複雑な情報を読む、見る、聞く (英語・言語・芸術) ・技術的に読む、見る、聞く	<選択1> ・アカデミックな書き方 (英語・言語・芸術) ・技術的な書き方 <選択1> ・公的な話し方 ・対人的なコミュニケーション	<必修> ・文学、芸術創造、演技 (芸術) <必修> ・文学と芸術、分析と解釈 (芸術)	<選択1> ・明確な数学 ・数字の意識 ・可能性とデータの処理 <選択1> ・代数の型 (数学) ・技術的応用 <必修> ・型、空間、測量 (数学)	<選択1> ・数学調査 (数学) ・科学の歴史 (科学) ・文化による歴史 (世界の言語) ・芸術の歴史 ・世界の歴史と文化 (社会) ・歴史の記録 (社会) ・問題の分析 <選択1> ・調査プロセス (数学・世界の言語) ・社会科学プロセス ・調査及びビジネスプランの創造 ・市場調査 ・ケーススタディー ・新製品の開発	<選択2> ・生物学に関する概念 (科学) ・化学に関する概念 ・地球と宇宙のシステム ・物理学に関する概念 ・環境のシステム	<必修> ・U.S.の歴史必修 ・U.S.の市民性 <必修> ・多様な見方 (家庭科) <選択1> ・人間の地理 ・社会の制度と伝統 ・地域の相互作用	<必修> ・個人と地域の健康 (健康・体育) <必修> ・体育とフィットネス (健康・体育) <選択1> ・キャリア調査 (家庭科、社会科) ・職業的経験	<必修> ・経済のシステム <選択1> ・自然と管理システム ・個人と家族の資源管理 ・ビジネス経営 ・金融システム ・技術的システム	<選択> ・世界の言語

Minnesota's Graduation Standards Preparatory High Standards Grade K-8, High Standards High school Level 1998,
Minnesota Public School, Teached and Instructional Service および

Graduation Standards Assessment packages Family and Consumer Sciences Middle level より筆者作成

※Minnesota Public School, Teached and Instructional Service および

Graduation Standards Assessment packages Family and Consumer Sciences Middle level は

ミネアポリススクールディストリクトの会議における配布資料である。

※州教育スタンダードの学習領域の担当教科を筆者が下線部で示した。

表 ミドルスクールの家庭科におけるキャリア教育の実施状況

州	学校	家庭科におけるキャリア教育			学校のキャリア教育の中心的教科・プログラム
		家庭科のコース	キャリアに焦点を当てたコースの有無	キャリアに焦点を当てたコース以外でのキャリア教育の在り方	
ウィスコンシン州	Ben Franklin Junior High School	・10代の生活スキル1 ・10代の生活スキル2 ・10代の今日 ・企業家（キャリアと10代）	○	関連する職業を紹介し、キャリアについて理解させる。	社会 家庭科
	Verona Middle School	・子供の発達に関するコース ・ビジネスについてのコース ・食物と栄養	○	低学年でいろいろなキャリアに触れさせ、高学年では学習領域に関連する職業のゲスト（家庭科と関連ある職業、調理師等）を招いて学習させる。	家庭科
	Stoughton Middle School	・食物・栄養に関するコース ・消費者教育内容のコース ・人間発達に関するコース	×	高学年ではサービラーニングを導入した授業を展開し、仕事について学べるようになっている。	家庭科
	Cherokee Height Middle School	・人間発達 ・家族 ・食物と栄養 ・裁縫 ・消費者教育内容 ・キャリア探求 ・ライフスキル ・サービラーニング ・価値と選択	○	積極的に、サービラーニングを導入してキャリア教育を行っている（例えば見学した授業では、高齢者施設へのプレゼントをミシンで作成していた）。	家庭科
ミネソタ州	Falcon Ridge Middle School	・消費者教育のコース ・10代の問題 ・問題解決	×	高学年で各領域で様々な職業を紹介し、仕事の世界を理解させる。	スクールカウンセラーによるプログラム
	Anthony Middle School	・家族と消費科学 ・食物と栄養 ・自分のビジネスをもつ	○	各領域に関連する職業を紹介し、キャリアについて学習させる。	キャリアカウンセラーによるプログラム 家庭科

表 ハイスクールの家庭科におけるキャリア教育の実施状況例

州	学校	家庭科におけるキャリア教育		学校のキャリア教育の中心的存在
		家庭基礎コースに類するコース	職業基礎コースに類するコース	
ウィスコンシン州	North High School	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び、食物、フィットネス ・食物 ・食物（発展コース） ・ファッションとインテリアのデザイン ・ファッション（発展コース） ・自分で生きる ・10代の選択 ・関係性 ・子供の発達1/ペアレンティング ・子供の発達2/子ども ・キャリアとあなた ・ライフスキルトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達3/ティーチング ・健康に関連するキャリア ・学校家庭クラブ（FCCLA）Co-op ・学校家庭クラブ（FCCLA）Co-op Job 	家庭科 ビジネス
	Port Edwards High School	<ul style="list-style-type: none"> ・食物科学 ・食物に関するサービス ・親/子 ・家族関係 ・仕事へ向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物に関するサービス（発展コース） ・子どもと働くこと 	特別プログラム 家庭科
	Wisconsin Dells Senior High School	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のための食物 ・家族関係と生活のためのスキル ・職場実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物の範囲 ・子どもの学習 ・ファッションキャリア ・インテリア建築 ・料理業 ・生活のための料理 ・子どもたちを見に行き、授業の仕事経験を行う ・協同的労働経験 	特別プログラム 家庭科 ビジネス
ミネソタ州	Hopkins High School	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理 ・食物 ・住居とインテリアのデザイン ・キャリア探求 ・10代の問題に向かう ・消費者の賢明さ ・結婚と家族 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理に関するインターンシップ ・食物インターンシップ ・住居とインテリアデザインのインターンシップ 	学校全体（家庭科教師はキャリア教育カリキュラム作成の中心的存在）
オハイオ州	Worthington High School	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・消費者科学 ・食物とフィットネス ・子供の発達/ペアレンティング ・自立した生活 ・生活の選択 ・メンターシップ・プログラム ・ヘルシーな料理 		家庭科

表 家庭科におけるキャリア教育モデル

能力領域及び内容		目 標		
能力領域	内 容	小学校	中学校	高等学校
①自己理解	・自己肯定 ・自己受容 ・自己認識	自分の長所や特技を理解し、自己を肯定するとともに、短所や不得意なことも認識する。	自分の様々な面を理解するとともに、短所や不得意な事柄を補い、長所や特技等を伸ばさせる。	自分について総合的に理解し、将来の職業や家庭・地域生活における具体的な在り方を考える。
②人間関係	・他者理解 ・人間尊重 ・役割認識 ・コミュニケーション能力	身近な人（友人や家族等）の長所や役割を認め、友好的な関係作りを行う。またその人達との関わりの中で自分が成長していることを理解する。	他者との関わりが自分にとって重要であることを理解し、積極的に人間関係を構築する。	他者との関わりを生かしながら、自己を成長させ、効果的に他者と関わっていく。また他者のために自分ができることを探求し、他者を援助する。
③意思決定	・意思決定の種類 ・意思決定プロセス ・価値と目標の考慮 ・社会的圧力の理解 ・批判的思考 ・実践的推論を用いた意思決定プロセスの活用	いろいろな意思決定があることに気づき、毎日が意思決定の連続であることを理解する。また、自分で納得して意思決定を行うことの大切さを理解する。	意思決定の重要性について理解し、意思決定の方法を理解する。また、自分の価値や目標を理解する。	意思決定に影響を及ぼす社会的圧力について理解し、実践的推論を用いた意思決定の技能を習得し、活用する。暫定的な意思決定を行い、その意思決定に対する責任を受け入れる。
④情報収集／経験	・情報収集 ・情報加工 ・情報比較・検討 ・啓発的経験 ・コンピューター活用	自分の興味・関心のあることについて、身近な人に聞いたり、書籍等で調べたりする。	生き方を模索していく経験に取り組み、書籍やコンピューター等を利用して将来の自分の家庭・職業・地域生活に関する情報を積極的に収集し、比較検討する。	啓発的経験に積極的に取り組みるとともに、種々の経験や情報を比較・整理・統合して自分の生き方を考える。
⑤ライフキャリアプランニング	・家庭生活・職業生活・地域生活の役割認識 ・家庭生活・職業生活・地域生活の統合 ・家庭生活・職業生活・地域生活の股計および準備	身の回りの家庭生活・職業生活・地域生活における自分の役割を理解する。	自分の将来の生活を、家庭生活・職業生活・地域生活の側面から捉え、自分の生き方を模索していく。	実践的推論を用いて、将来の自分の家庭生活・職業生活・地域生活について暫定的な意思決定を行う。そして、現在の学業や経験との関連を理解し、統合的にライフキャリアを設計・準備していく。

(出典) Chamberlain, V. M. 1990 *Teen Guide*, Glencoe/ McGraw-Hill.
 Craig, B. L. & Miles, J. B. 1992 *Careers in Home Economics*, EMC Corporation.
 Eubanks, E., Sasse, C. R. & Glosson, L. R. 2000 *Shaping Your Future*, Glencoe/ McGraw-Hill.
 Glosson, L. R., Meek, J. P. & Smock, L. G. 1997 *Creative Living*, 6th ed., Glencoe/ McGraw-Hill.
 Love, C., Larrick, A. & Cobb, B. 1997 *Career Exploration in the Middle School*, Family and Consumer Sciences Association, Central Washington University.
 Minnesota Department of Children, Families & Learning and Minnesota State Colleges and Universities 1999 *Career Horizons Resource Guide: Expanding Thinking About Careers by Using Informed Decision Making*, 2nd printing.
 職業教育・進路指導研究会（代表 仙崎武）1998 平成8・9年度文部省委託調査研究「職業教育及び進路指導に関する基礎的研究（最終報告）」等を参考に筆者作成。

表 家庭科におけるキャリア教育の可能性

能力領域	小学校 (家庭)	中学校 (技術・家庭(家庭分野))	高等学校 (家庭総合)
①自己理解		B家族と家庭生活 (1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり	(1) 人の一生と家族・家庭 ア人の一生と発達課題
②人間関係	(1) 家庭生活に関心をもって、家庭の仕事や家族との触れ合いができるようにする。	B家族と家庭生活 (3) 家庭と家族構成	(1) 人の一生と家族・家庭 イ家族・家庭と社会
③情報収集／経験		A生活の自立と衣食住 B家族と家庭生活	(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもの発達と保育・福祉 (3) 高齢者の生活と福祉 (4) 生活の科学と文化 (5) 消費生活と資源・環境
④意思決定	(7) 身の回りの物や金銭の計画的な使い方を考え、適切に買物ができるようにする。	A生活の自立と衣食住 (2) 食品の選択と日常食の調理の基礎 (3) 衣服の選択と手入れ B家族と家庭生活 (4) 家庭生活と消費	(1) 人の一生と家族・家庭 ウ生活設計 (5) 消費生活と資源・環境 ア消費行動と意思決定
⑤ライフキャリアプランニング			(1) 人の一生と家族・家庭 ウ生活設計

(「小学校学習指導要領」1998, 「中学校学習指導要領」1996, 「高等学校学習指導要領」1999に基づき筆者作成)

表 質問項目の主成分分析 (Varimax 解) の結果

項目	項目内容(逆転項目*)	情報収集 や経験へ の積極性	肯定的な 自己理解	将来の 計画性	意思決定 への自信	他者との 関係重視	共通性
		($\alpha=.72$)	($\alpha=.74$)	($\alpha=.76$)	($\alpha=.74$)	($\alpha=.67$)	
34	自分の能力や個性を生かす仕事にはどんなものがあるか知りたい。	0.66	0.03	-0.11	-0.01	0.12	0.47
35	周囲の大人の人が、どんな仕事をしているか知りたい。	0.64	0.10	-0.01	0.01	-0.02	0.42
40	将来の生き方を見つけるために、仕事に関わる経験(インターンシップ等)を行いたい。	0.61	0.02	0.26	0.05	0.11	0.46
31	将来の仕事のことが気になる。	0.61	-0.01	0.14	0.07	0.04	0.41
36	アルバイトやインターンシップ等の就業経験は、進路の選択に役立つと思う。	0.56	-0.01	0.11	-0.01	0.19	0.36
45	職業は、家庭生活や地域生活とバランスがとれるようにすることが大切だと思う。	0.51	0.14	0.06	0.14	-0.01	0.30
41	将来、職場・家庭・地域のいずれにも、自分の役割をもちたい。	0.51	0.18	0.14	0.07	0.13	0.33
5	自分のことが好き。	0.01	0.82	0.06	0.04	0.07	0.68
6	自分自身に自信をもっている。	-0.04	0.80	0.07	0.21	0.02	0.69
8	毎日の生活が楽しい。	0.06	0.62	-0.02	-0.06	0.25	0.45
7	目標に向かって頑張れば、たいいていことはできるような気がする。	0.20	0.51	0.03	0.12	0.03	0.33
1	自分の長所や特技が分かる。	0.13	0.51	0.20	0.18	0.17	0.37
43	将来の仕事に向かって、何か計画している。	0.06	0.16	0.82	0.15	0.03	0.72
44	将来の仕事に向かって、準備したり実行していることがある。	0.04	0.17	0.80	0.14	0.03	0.69
42	将来の仕事についてのビジョン(展望)をもっている。	0.06	0.21	0.67	0.20	0.05	0.54
37	本や雑誌で興味のある仕事を調べたことがある。	0.32	-0.07	0.60	0.01	0.11	0.48
38	コンピューターを使って、興味のある仕事を調べたことがある。	0.08	-0.06	0.57	0.02	0.02	0.34
22	よりよい解決策を見つけるために、できるだけ多くの情報を集められる。	0.01	0.11	0.15	0.79	0.10	0.67
21	何か困った事態に直面した時、どこに問題があるかすぐに見つけることができる。	0.05	0.11	0.04	0.76	0.11	0.61
23	重要な決定の結果、起こってくるいろいろな可能性について推察できる。	0.04	0.06	0.13	0.75	0.13	0.60
24	重要な決定の際、自分の信念や価値を満足させる選択をしている。	0.16	0.33	0.12	0.47	0.13	0.38
26	目標を決めたら、どうすればうまくいのか考えて準備をする。	0.24	0.24	0.21	0.33	0.21	0.31
16	人とのつながりを大切にしている。	0.15	0.25	0.08	-0.05	0.66	0.54
12	他の人に対して、誠実であるように心がけている。	0.22	0.08	0.02	0.10	0.65	0.49
14	人との調和やルールを重んじている。	0.21	0.07	0.04	0.10	0.63	0.45
15	友達に頼りにされていると思う。	0.01	0.39	0.09	0.10	0.51	0.43
11	周りの人の長所や個性が分かる。	0.20	0.01	0.10	0.28	0.51	0.39
13	自分のことでせいっぱいで、他の人の気持ちを考えられない。*	-0.13	0.02	-0.02	0.11	0.48	0.26
寄与率(%)		20.53	8.40	7.64	5.73	4.72	47.02

表 尺度の学校段階、性別、キャリア教育的経験にみた差異

尺度	<学校段階にみた差異>			<性別にみた差異>			<キャリア教育的経験にみた差異>					
	尺度の総得点	平均	標準偏差	有意差	尺度の総得点	平均	標準偏差	有意差	尺度の総得点	平均	標準偏差	有意差
情報収集や経験への積極性	中学(N=448)	26.38	4.85	**	男(N=242)	26.21	5.10		あり(N=171)	26.44	5.35	
	高校(N=597)	27.69	4.49	**	女(N=206)	26.58	4.54		なし(N=277)	26.35	4.52	
	大学(N=417)	29.20	3.83	**	男(N=286)	26.86	4.81	**	あり(N=183)	27.55	4.83	
肯定的な自己理解	中学(N=448)	16.32	3.98	**	女(N=311)	28.45	4.03	**	なし(N=414)	47.75	4.33	
	高校(N=597)	16.32	3.69	**	男(N=129)	27.91	3.69	**				
	大学(N=417)	17.25	3.56	**	女(N=288)	29.78	3.63	**				
将来の計画性	中学(N=448)	13.39	4.82	**	男(N=242)	17.21	3.86	**	あり(N=171)	16.36	3.81	
	高校(N=597)	15.27	4.56	**	女(N=206)	15.27	3.86	**	なし(N=277)	16.30	4.08	
	大学(N=417)	16.82	4.01	**	男(N=286)	16.56	4.01	**	あり(N=183)	15.89	3.84	
意思決定への自信	中学(N=448)	15.73	3.54	*	女(N=311)	16.10	3.36	*	なし(N=414)	16.51	3.61	
	高校(N=597)	15.43	3.41	*	男(N=129)	17.51	3.42	*				
	大学(N=417)	16.06	3.09	*	女(N=288)	17.14	3.61	*				
他者との関係重視	中学(N=448)	20.53	3.64	**	男(N=242)	13.53	4.94	**	あり(N=171)	13.16	4.52	
	高校(N=597)	21.15	3.25	**	女(N=206)	13.22	4.68	**	なし(N=277)	13.53	5.00	
	大学(N=417)	22.12	3.16	**	男(N=286)	14.51	4.64	**	あり(N=183)	15.13	4.28	
				女(N=311)	15.97	4.38	*	なし(N=414)	15.36	4.68		
				男(N=129)	16.10	4.01	*					
				女(N=288)	17.15	3.98	*					
				男(N=242)	15.00	3.62	**	あり(N=171)	15.11	3.45	**	
				女(N=206)	15.43	3.42	**	なし(N=277)	16.12	3.55	**	
				男(N=286)	15.65	3.70	**	あり(N=183)	14.80	3.10	**	
				女(N=311)	15.22	3.11	**	なし(N=414)	15.70	3.50	**	
				男(N=129)	15.92	3.05	**					
				女(N=288)	16.16	3.11	**					
				男(N=242)	20.08	3.64	**	あり(N=171)	20.06	3.60	*	
				女(N=206)	21.05	3.57	**	なし(N=277)	20.82	3.63	*	
				男(N=286)	20.86	3.49	*	あり(N=183)	21.19	3.11	*	
				女(N=311)	21.41	2.98	**	なし(N=414)	21.12	3.31	*	
				男(N=129)	21.52	3.58	**					
				女(N=288)	22.39	2.92	**					

注) 大学生においてはキャリア教育的経験を有していない。

p<0.05* p<0.01**